

## 人間関係の基本の言葉

～ 「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」～

みなさんよくご存知の言葉です。でも、意外とこれらを使うことが少なくなっているのではありませんか？ さすがにみなさんは校園所にお勤めですので、子どもたちには毎日しっかり対応されていると思いますが。

そもそも「おはよう」や「こんにちは」などのあいさつは、人と人が出会ったとき「私はあなたの敵ではありません。」という意思表示のためのものです。ですから、そんなきっちりと言わなくても、「ハイ！」と言ったり、微笑(ほほえ)んだりうなづくだけでもいいんです。昔、戦いの多かった時代には、相手の警戒心を解くような「発信」をしないと自分の身(命)が危ないところから生まれました。ルーツは「命を守るあいさつ」です。それが今は人間関係づくりの基本の言葉となっています。残念なことに、子どもたちにはあいさつをきっちり言うことだけが「目標化」してしまっているようにも感じます。さらにその指導を校園所が担うのがあたりまえという状況です。こうした生きていくうえでの基本的なことは、まずは家庭や地域からでは？

さて、あいさつのことで、大人との関係で、まわりの人から言われたことがありました。例えば、年2回(7月と11月)の全市あげでの「あいさつ運動」のとき、先生方も朝早くから登校旗を持ってあちこちの交差点へ急いでおられますね。そんなとき、地域の人もたくさん立ってくださいます。(市全体でおよそ1,000人です。)以前、そのうちの一人の方から「あの人は学校の先生やのに、あいさつもできんのか。」などのお叱りをいただきました。どの先生がどんな動きをしているのか、地域の人たちは関心を持って見ておられます。たまたまその先生は考えごとをしていてまわりに目がいかなかったのかも知れません。残念ながら、その一人の先生の件が先のような地域の人々の発言となってしまいました。学校の中では子どもたちに細心の配慮をしても・・・です。

ところで、子どものいないとき、学校や園の職員間ではどうでしょうか？ 例えば、朝、出勤したとき、あなたは「おはようございます。」と自分からあいさつをしていますか？ 出会った相手の人からあいさつされて初めて「おはようございます。」と返すことはないですか。もちろん全くあいさつしないとかはないでしょうが・・・。残念なことに、人生経験の浅い人は、まわりに配慮する余裕がないのか、あるいは「人が見えていない」のかもかもしれませんね。特に、自分で「忙しい。」「忙しい。」と思っている人、「あれもしなくちゃ。」「これも・・・。」と、仕事で目いっぱいの方は「余裕がない」状態です。『めりはり』をうまくつけると倒れますよ。あいさつどころではないかも知れません。でも、そんな自分の仕事のやり方を見直すためにも、「私は、あいさつができていないかな？」と自分をふり返ってほしいと思います。

『人間は社会的動物である。』という有名な言葉(アリストテレス)があります。人は一人では生きていけないという意味です。また、そこから、社会(集団)にはそれを維持していくための「規範」が生まれ、その一員には規範を守ることが要求されます。そして、そうした社会の人間関係を維持していく基本的な手段として、サブタイトルに示したような3つの言葉があります。

私たち教職員はもちろん、地域のすべての大人は子どもたちの「人生の先輩」として、後輩(子ども)の生きる「手本」となります。どうぞみなさんがこの3つの言葉をしっかり使い、子どもたちに「大人の手本」となってくださるようお願いしています。それは「対子ども」だけでなく、「対大人」にも言えることだと思います。まず、職場から・・・そして、私から・・・さらに「今でしょ！」